

収蔵品紹介

可児市久々利の大平・大萱には、桃山時代から江戸時代にかけて多くの窯が築かれ、黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部といった焼き物が生産されていたことで、全国に知られています。
今回は、志野山景色四方向付と織部水注を紹介します。



志野山景色四方向付

16世紀末～17世紀初 一辺9.3cm 高5.8cm

ロクロ成形後、型で整形したやや小ぶりの向付で、碁笥底のそとにトチの痕が3カ所見られる。

松の生えた山景色の色柄がメインで、鉄絵と緋色の発色が美しい。市内久々利大萱の牟田洞古窯の産か。

織部水注

17世紀 胴径14.5cm 高18.1cm

把手付で、細部の作りも行き届いた水注。口縁を内側に折り返し、蓋受けとしている。

銅緑釉の発色が美しく、緑のない前後の空白に柳の絵柄を配する。

底部は削りにより、輪高台を作り出す。



さあ夏休み!!

大人も子どもも 郷土歴史館

1

夏休みの企画展

「懐かしの学校と子どもたち」展

●期間● 7月24日(火)～9月2日(日)

誰もが体験した「学校生活」は、世代を超えた共通の話題です。学校に残された記録資料などから市内各校の歴史を紹介するとともに、机や教科書、筆箱といった学用品などを展示します。

懐かしい記憶をたどりながら、お子さんやお孫さんと一緒に、身近な歴史に触れてもらいたいと思います。



3

自由研究のお手伝い!

古墳博士になろう

●展示期間● 7月24日(火)～9月2日(日)

神崎山古墳出土品▶



古墳の宝庫、可児市。長塚古墳や身隠山古墳など、市内各古墳からの出土品を一堂に展示します。
※紙で作る次郎兵衛1号墳石室模型をプレゼント

へ大集合

2

ちびっ子のみんなへ

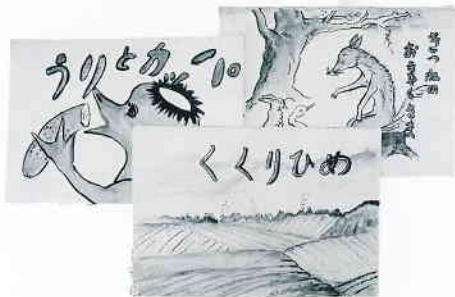
紙芝居&読み聞かせ

●紙芝居 期日●

7月28日(土)、29日(日)

昔のワラ屋根民家の座敷で、可児の昔話やふるさとの物語を聞いてみませんか。

『可児の昔話』から「くくりひめ」と「龍の枕石」を紙芝居で聞いてみよう。



▲堀 琴子さん手作りの紙芝居

●読み聞かせ 期日●

8月4日(土)、5日(日)

『ものがたり可児の百年』の読み聞かせ。可児の歴史を分かりやすくお話しします。



ものがたり可児の百年▶
(可児民話の会発行)

- 時 間 各日とも 10:00・11:00 の 2 回開催
- 申 込 不要、ご自由に参加ください
- 場 所 可児郷土歴史館
民俗資料館和室

陶芸苑だより

今から 25 年前、市制 5 周年を記念して、志野・織部などの美濃焼き発祥地として名高い久々利の地にと、郷土歴史館に隣接して陶芸苑が建てられました。1 階部分の学習室には電動ロクロ 8 台が置かれています。奥には、乾燥室、釉薬や備品などの入った倉庫があり、南には茶室、北には電気炉を備えた焼成室があります。本苑は、作陶活動を通して陶器の伝統文化に触れられるよう意図して造られた施設です。

市民の皆様には作陶の基礎を身につけ、楽しさや面白さを味わえるよう定期的に「手作り美濃焼講座」を開催しています。その内容を紹介します。

【成形】：電動ロクロを駆使しての成形体験は陶芸の中核です。程よい回転と上下する両手の動きで、土塊が作品へと見事な変化をします。

【削り】：成形の約 2 日後に行います。底部を削って高台を作り、全体を薄くします。

【絵付け・釉かけ】：釉薬には赤・緑・黄・青・白などあります。筆で絵や模様をつけた後、作品を釉薬の中に漬けて乾燥させます。

【焼成】：電気炉に作品を入れて約 1200 度の温度で焼き上げ、完成となります。

【お茶会】：最終日に茶道の先生を招き、自作の茶碗で和菓子付きの茶会を設けています。

7 受講日を 1 回とした 1 カ月余の講座です。午前・午後・夜間を設定し、年間 3 回計画しています。さらに作陶意欲の旺盛な方は自主サークルを興し、本苑を利用している人もいます。



▲手作り美濃焼講座

兼山歴史民俗資料館だより

兼山の各務悦子さんから、昔のうちわ40点、防空ずきん、箱まぐらの寄贈を受けました。

なかでもうちわは、明治時代末から昭和初期にかけてのもので、藤掛蘇春館（医院）、関屋油店（油・肥料）、福井屋商店（菓子）、山音商店（米穀・石油）、飯田書店（本）、魚利（仕出し）、永楽屋呉服店（衣料）、丸太商店（衣料）など、兼山を代表する商家の店名が刷り込まれています。和紙に柿渋を塗ったもの、絹に油びきしたものは平柄で、やや小ぶりの塗りのないものは丸柄です。現在、地下1階の兼山の商業のコーナーに展示しています。



▲寄贈のうちわ

資料の寄贈・寄託

○ 寄贈資料

平成23年12月から今年3月までに次の方々から貴重な資料を寄贈していただきました。

渡辺昭三、林良三、渡辺芳延、大野邦雄、浅井玲、大澤欣平、神谷清子、水野テツ子、渡辺富美子、久々利連絡所、加藤ハツ、奥村小夜子、原進（敬称略）ありがとうございました。

主な寄贈資料

郡長日記「懐紳」（神谷清子氏寄贈）

明治12年（1879）の郡制発足にともなって初代可児郡長に就任した神谷道一の日記「懐紳」をご寄贈いただきました。

郡長日記「懐紳」は、罫紙を二つ折りにした縦18.2cm、横13.2cmの和綴じ4冊からなります。1冊目から2冊目の途中までが可児郡長時代で（明治12年2月～同14年6月）、その後恵那郡長、

飛騨郡長としての日記が続く。いずれも日にち順に細かな字で克明に記されており、町村制施行以前の行政や村々の様子が分かる一級資料です。



▲「懐紳」

顕微鏡、牧野富太郎色紙（加藤ハツ氏寄贈）

明治18年（1885）久々利で生まれた加藤新一は地元の小学校に勤務し、大正3年（1914）、国指定天然記念物「サクライソウ」を久々利で発見、植物研究や化石調査などに足跡を残しました。

その間、研究者として植物学者の牧野富太郎やサクライソウ発見者の桜井半三郎などと交流がありました。寄贈品は、加藤新一の遺品で、顕微鏡や牧野富太郎が揮毫した植物図鑑などがあります。



▲顕微鏡と日本植物図説集

○ 寄託資料

平成23年12月以降新たに、「生田製糸資料」、「白織部狛犬」、「瓦製狛犬」が寄託となりました。

可児郷土歴史館

〒509-0224 岐阜県可児市久々利1644番地1
TEL 0574-64-0211 FAX 64-0238
Eメール kyodorekisikan@city.kani.lg.jp

●開館時間／午前9時～午後4時30分 ●休館日／月曜日、祝日の翌日、12月26日～1月5日
●入館料／大人310円(30名以上の団体250円)、高校生以下無料